

本大会における熱中症の対策について

本大会は試合中の熱中症予防対策として、危険回避すべく「休憩タイム」を採用します。

環境省からの「熱中症警戒情報」暑さ指数（WBGT）を確認し、予防行動に準じ運営するが、大会期間中は「警戒アラート」の気温 31℃以上、暑さ指数（WBGT）は「厳重警戒」の 28 以上の状況になるものと予測されます。

よって、本大会の全試合を対象に、下記の[場面]となった場合、「休憩タイム」を実施し、水分補給・塩分補給を促す。

[場面] ・守備機会チームが 1 イニングの守備時間が 15 分超過となった場合。

B S O の区切りをみて中断し、5 分間の「休憩タイム」を入れる。

(15 分超過は本部から球審へ伝達)

{計時} ・休憩開始時間は球審の「タイム・撤収コール」で開始、5 分後アナウンスで再開を告げ、「守備位置到着後のプレイ・コール」で継続カウントにて再開。

(5 分間は試合時間に入れない。本部にて計時確認)

全軟連競技者必携<抜粋>

◆指名打者の取り扱い

◎指名打者ルールを使用することができる。ただし、二刀流選手を採用しない。

◆守備側のタイムの回数制限

◎監督またはコーチ等が 1 試合に投手のもとへ行ける回数は 3 回以内。

延長戦は 1 イニングに 1 回。ただし、投手交代の場合は回数に含まない。

◎投手交代の場合、投手と捕手の打ち合わせ(サインの確認)のために、準備投球の前・後に少しでも会話することは、捕手または内野手の回数に含まない。

試合のスピード化に関する事項

1. 攻守交代はかけ足でスピーディに行うこと。ただし、投手に限り内野地域内は歩いても差し支えない。監督が投手のもとへ往来する場合も、小走りでスピーディに行うこと。
2. 投球を受けた捕手は速やかに投手に返球すること。また、捕手から返球を受けた投手は速やかに投手板を踏んで投球姿勢をすること。
3. 打者は速やかにバッタースボックスに入ること。また、バッタースボックス内でベンチ等からのサイン見ること。
4. 試合中、スパイクの紐を意図的に結び直すためのタイムは認めない。
5. 内野手間の転送球について
内野手間の転送球は一回りとする（状況によっては中止とすることもある）最後にボールを受けた野手は、定位置から速やかに投手に返球する。
6. 攻守交代時に最後のボール保持者は、投手板にボールを置いてベンチに戻ることに。
7. 代打または代走者の通告は氏名とともに、「代打者」または「代走者」の背番号を球審に見せその旨を告げる事とし、球審も放送席に向かって選手の背番号を見せて、「代打」または「代走」と告げる。